

分の倫理綱領を持たなければなりません。

それでは一体倫理綱領はどうしてつくりだすのでしょうか。与えられる倫理綱領ではなくて、自分の職業の根柢を自から見出していく努力のうちに、倫理綱領が生れるのです。倫理綱領を持たず、ただ学校から免状を貰えばよいというのは、十九世紀の産物です。われわれはまだこれから脱却していません。それで満足していたり、国家の力に依存しているは、本當の業人としての信条をまっとうするわけにはいきません。職業人自からが倫理綱領を生み出し、作り出している時に、はじめて私はヴォケーションとして聖なる職業が成立するのではないかと考えます、学校教師はたい倫理綱領を持つていたろうか。法律によって、倫理綱領を求めることはできません。国家によってつくられるようなものではなく、問題は解決されないのです。自主的に倫理綱領を持つ時代がこなければ、本當の職業人としての立場は確立しないのです。その点において、幼児の教育に従事される皆さんが、一つの職業的倫理綱領を、自然に経験と自覚から生み出す時代が来た時に、恐らく職業人としての信条は、その中に盛り込まれるのではないのでしょうか。そしてそれは苦闘、経験の結果生れるもので人から与えられるものではないということだと思います。このように私は思うのです。

●昭和三十一年度教員養成学部教官研究会幼稚園部会について

一昨年は大分で、昨年は岡山で開催されたこの会は、本年は全国国立三十六大学より保育関係の講義に関係ある教官教諭七十一名が参加して十月二十二日より二十五日まで大阪で開かれた。昨年のこの会の報告は、「幼稚園教員養成の諸問題」と題して岡山大学教育学部より小冊子が発行されているが、昨年は「幼稚園教育総論」について主たる論議が交された。本年は昨年にひきつづいて保育内容各論、社に「社会」「言語」「自然」の三分野について討論された。各大学より提出された保育関係の講義に関する事前調査の資料を参考として、上の三分野について一応のシラバスを作ることに意見が一致し、そのシラバスの内容についての討議が今日の会合の主たる議題であった。なおその席上、幼稚園実習の問題が討議され、現在では小学校教育実習の単位をもっていれば幼稚園教育実習は必ずしも必要としないのは遺憾であるとされ、幼稚園教諭の普通免許状を取得する場合には一―二単位以上の幼稚園教育実習の単位を必ず取得することが望ましい旨が決議された。また幼稚園教員養成においては小学校教育実習と小学校教員養成においては幼稚園教育実習を行うことが望ましいことが確認された。保育内容のシラバスの具体的な案の詳細及びこの会の討論の内容については、近く大阪学芸大学より集録が刊行される予定であるから、それにみることでできる。